2020.4.24　No.3

CESCHI NEWS LETTER

京都大学大学院文学研究科附属　文化遺産学・人文知連携センター　ニュースレター

人文知連携拠点成果公開のウェッブ・ページを開設しました

2019 年 4 月、文学研究科に新たに「文化遺産学・人文知連携センター (CESCHI)」が設置されました。その下位組織である「人文知連携拠点」は、人文学諸分野を横断・総合する研究を進めるとともに、文学研究科での研究成果を社会に対して組織的に発信する役割を担います。そしてこの度、人文知連携拠点では、文学研究科の成果を可視化して広く社会に発信するプラットフォームとしてウェブサイトを立ち上げました。

http://www.ceschi.bun.kyoto-u.ac.jp/kyoten/

この人文知連携拠点成果発信ウェブサイトは、六つの内容で構成されています。

1. 人文・社会科学において最も重要な成果物である書籍について、学術書から一般書まで、文学研究科教員の新刊情報を幅広く紹介します。
2. 文学研究科の長い歴史の中で各研究室に蓄積されてきた、一般に利用可能な研究雑誌アーカイブやデータベースをとりまとめて紹介します。
3. 文学研究科ではどのような研究をしているのか、どのような教員がいるのか、一般の方々にも認知してもらうために、教員が自身の研究歴などについて執筆した短編のエッセイを紹介します。

4. 小・中学生や高校生への出前授業、一般市民向け講演会など、文学研究科の教員がこれまでに行ってきた社会貢献活動の内容について紹介します。
5. 学部創設以来の歴史ある専修や、学際的な分野として新たに設置された専修など、文学研究科の多種多様な研究室の歴史や特色について紹介します。
6. 上記の研究成果や社会貢献活動のデータベースを構築し、その内容を教員や分野ごとに検索することができます。

これらの研究成果や社会貢献活動に関するデータベースは、今後教員の協力を仰ぎ、自ら入力してもらうことで拡充されていきます。そのため、今回の公開時点でのウェブサイトの内容はこれからさらに充実していく予定です。文学研究科の成果や意義を広く社会に認識してもらうために、今後もウェブサイトをより利用しやすいように工夫していきます。

なお、文化遺産学・人文知連携センターのトップページの意匠もリニューアルしました。こちらもご活用ください。

http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/ceschi/ces-top_page

公開シンポジウム「玄奘が見たバーミヤーンと京大隊が見たバーミヤーン」

2020年2月15日（土）、文学研究科第1・2講義室で、京都大学人社未来形発信ユニットの共催をえて、シンポジウム「玄奘が見たバーミヤーン　京大隊が見たバーミヤーン」を開催しました。

本シンポジウムは、吉田豊教授（言語学・文化遺産学研究施設内陸アジア学推進部門）の企画により、玄奘や京都大学の調査隊をはじめとして、多くの人々が訪れてきた世界文化遺産・バーミヤーン渓谷の石窟寺院に関する調査研究成果について、4名の方々からご報告をお願いしました。当日は、かつて京大隊に参加された方々や、現在もバーミヤーンに対する調査研究に携わっておられる方々をはじめとして、多くの方々に参加いただきました。

内記理「京大隊のアフガニスタン・パキスタン調査と残された写真資料」では、京都大学によるアフガニスタン・パキスタン調査の概要と、調査時に撮影され

た膨大な写真のデジタル化事業の現状が報告されました。またアフガニスタン・パキスタンの文化遺産に関する京都大学の新たな取り組みも紹介されました。

稲葉穣「バーミヤーン大仏のイスラーム史」では、10 世紀以降 19 世紀までイスラーム教徒が残したバーミヤーン大仏に関する記録の検討を通して、イスラーム化されるべき偶像としての巨大仏認識が次第に変容していき、イスラーム的な、またローカル的な意味づけがなされていった過程が示されました。

桑山正進「アフガニスタンの考古学とバーミヤーン」では、1959 年以降の京都大学によるアフガニスタン・パキスタン調査の多くに参加された経験を元に、各調査の経緯や、当時の調査の様子が披露されました。また、文献史料と考古資料を手がかりとしてアフガニスタンの歴史考古学において年代をどのように比定してきたのかについての報告がなされました。

岩井俊平「大仏破壊後のバーミヤーン―新たな調査と発見―」では、破壊された大仏の保存事業の概要と、その過程で進められた、下塗りの年代測定をはじめとする壁画の科学分析、周辺での石窟や寺院の発見、東大仏の瓦礫の中などからみつかった経典断簡の発見、といったこの間の新たな研究成果が紹介されました。

現在、本センターは、人文科学研究所と共同で日本学術振興会『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』(グローバル展開プログラム)「逸失の危機にある文化遺産情報の保全・復元・活用に関する日・欧・アジア国際共同事業」を受託し、今年度は、カーブル博物館学芸員研修プログラムなどに協力してきました。今回のシンポジウムを契機として、アフガニスタン・パキスタンでの調査成果をはじめとする、京都大学所蔵海外調査資料のデジタル化と発信・国際的協同を、今後さらに進めていきたいと考えています。

センター開催行事日誌(2020年1月～3月)

■尊攘堂の改修工事・展示リニューアル作業

京都大学構内遺跡から出土した縄文時代から近代にいたるまでの遺物の展示施設として利用していた尊攘堂は、2018 年 6 月の大阪府北部地震により天井の一部などが破損し、閉室しておりました。2019 年度に建物の修理が行われたことを契機として、展示のリニューアル作業を進めてきました。3 月はじめに全ての作業を終えましたが、残念ながら、新型コロナウイルスのためにお披露目が遅れております。公開が可能になり次第、調査成果を広報していくための施設として活用していく予定です。

■人文知連携共同研究会

人文知連携拠点では、文学研究科の専修・専攻の枠組みを超えて、異質な知や価値の共存に資する学術的知見を共同して探求し、新たな人文知の創成に貢献することを目的として、複数の専修・専攻に属する文学研究科教員をメンバーとする共同研究プロジェクトを進めています。2019 年度にはじまった「古代人の感情に関する共同研究」(代表：南川高志)と「人文学の方法論」(代表：伊勢田哲治)の二つの研究会の詳細は、以下の WP を御覧下さい。

https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/ceschi/kyoudou/

■2020 年 2 月 19 日（水）～
（京大文化遺産調査活用部門）
特別展「文化財発掘Ⅵ－幕末・近代の出土文字資料－」（京都大学総合博物館と共催）
＊新型コロナウイルス対策のため総合博物館は閉館中です。再開館後の日程については未定です。また 3 月 14 日・28 日に予定されていた講演会は延期されました。
■2020 年 2 月 22 日（土）
（内陸アジア学推進部門）
国際ワークショップ「帝国法とイスラーム法の間」（於：羽田記念館）
■2020 年 3 月 7 日（土）・8 日（日）
（内陸アジア学推進部門）
第 18 回中央アジア古文書研究セミナー（於：羽田記念館）
■2020 年 3 月 23 日（月）
（人文知連携拠点）
人文知連携共同研究会「人文学の方法論」第一回研究会「人文学と計量的研究手法」
（新型コロナウイルス対策のため延期）

京都大学大学院文学研究科附属　文化遺産学・人文知連携センター
〒606－8501　京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科
URL：http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/ceschi/ces-top_page/